

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-54	実施計画番号	67	事業開始年度	昭和53年度
事務事業名	十和田湖民俗資料館事業の充実			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	国指定重要文化財旧笠石家住宅の維持管理を行うとともに、民俗資料の収集・保管・研究と展示を行う。また、それらを活用した学校向けの体験型の学習プログラム「子ども見学体験事業」を実施する。				
事務事業の目的	周辺地域の民俗資料を保管・展示し、またそれを活用した見学体験事業を展開することにより、地域の暮らしの歴史と文化についての学習機会を提供する。				
実施状況	民俗資料館の常設展示、旧笠石家住宅の公開、小学校などを対象とした「子ども見学体験事業」を実施。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	244	243	243
	人件費(千円)	8,784	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	328	351	308
	人件費(千円)	2,427	2,597	2,279

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	3,172	3,713	3,654

【指標】

活動指標	活動指標名①		子ども見学体験事業実施校数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			校	5	11	7	
	活動指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
成果指標	成果指標名①		来館者数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	目標値	1,300	1,300	1,300
				実績値	1,343	1,500	
				達成度(%)	103%	115%	
	成果指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値				
			実績値				
			達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民や市内外各小中学校に、暮らしの歴史や文化を学習する場として活用されており、妥当性は高いものと思われる。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	市民や市内外各小中学校に、暮らしの歴史や文化を学習する場として活用されており、妥当性は高いものと思われる。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
市民や市内外各小中学校に、暮らしの歴史や文化を学習する場として活用されており、妥当性は高いものと思われる。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市外(県内・県外)の来館者や、子ども見学体験事業申込校が増加してきていることから、今後も継続して広報活動等を行ってきたい。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	市外(県内・県外)の来館者や、子ども見学体験事業申込校が増加してきていることから、今後も継続して広報活動等を行ってきたい。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	市外(県内・県外)の来館者や、子ども見学体験事業申込校が増加してきていることから、今後も継続して広報活動等を行ってきたい。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2						
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業については精査を行い、必要最小限の費用で施設管理や事業等を実施しており、効率性は高いものと思われる。なお、非常勤職員の管理人について、今後郷土館と同様に民間委託等により管理人を充当できるか検討していきたい。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	事業については精査を行い、必要最小限の費用で施設管理や事業等を実施しており、効率性は高いものと思われる。なお、非常勤職員の管理人について、今後郷土館と同様に民間委託等により管理人を充当できるか検討していきたい。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	事業については精査を行い、必要最小限の費用で施設管理や事業等を実施しており、効率性は高いものと思われる。なお、非常勤職員の管理人について、今後郷土館と同様に民間委託等により管理人を充当できるか検討していきたい。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">公平性は保たれている。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	公平性は保たれている。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
公平性は保たれている。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

市民や各小中学校、研究機関等へ、先人の暮らしの歴史と文化を広める事業であり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

子ども見学体験事業等の広報活動を行い、来館者が増えるよう広く周知していきたい。